

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

<ul style="list-style-type: none"> 近代科学の成立とそれを相対化して新たな科学の姿を描き出そうとした寺田寅彦の研究の意味を論じた評論からの出題。 本文の分量は昨年度より一頁ほど減少している。昨年度に引き続き、すべて記述説明であり、設問数も四問と変化はみられない。ただし、解答欄の合計行数は昨年度(15行)に比べ1行減り14行となった。 本文の分量の減少、記述分量の現象はみられるが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並。 昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。本文全体の理解を必要とする問五が理系において省略されるのはあまりみられないことである。
--

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	金森 修 『科学思想史の哲学』
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 直前の単純な理解に対する、より「複雑」な理解を対比的にまとめて説明する。
		問二	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部以降の内容から、「実験」が「経験」をどのように操作し、どのように観察するかを読み取る。
		問三	記述式	標準	傍線部の意味を説明する問題。(解答欄4行) 寺田寅彦の物理学研究の特徴を把握し、「惜しむかのよう」という見方の根拠となるものを示す。
		問四	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 「し損ない」という表現から、トレスアン伯爵が科学研究の水準に達していないことを示す。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<ul style="list-style-type: none"> 評論であれ随筆であれ、文章の主題や筆者の主張を全体からの確に把握するとともに、個々の文脈を正確に押さえる読解力が不可欠である。 設問の意図を踏まえ、理解した内容を簡潔かつ的確に表現してみる訓練が欠かせない。 漢字問題は出題されていないが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。
--

国語(現代文・古文・漢文) 京都大学 理系学部 (前期) 2 / 4

<総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題

試験時間 90分

- ・音楽批評をめぐる、本質的な批評のありようについて論じた評論。
- ・問題文は比較的読みやすいが、解答に必要な内容を過不足なく読み取り、それらを解答欄に収まるようにまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	「音を言葉でおきかえること」 (吉田秀和)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	評論	問一 問二 問三	記述式 記述式 記述式	標準 標準 標準	傍線部の理由説明問題。(解答欄3行) 傍線部の内容説明問題。(解答欄3行) 傍線部の理由説明問題。(解答欄3行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・二は、理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって問題の水準は決して平易とはいえない。共通問題のレベルにも対応できるように学習しておきたい。
- ・文章のジャンルを問わず、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体からの確に把握するとともに文脈を精確に理解する読解力と、その内容を適切に説明する記述力が不可欠である。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題

試験時間 90分

- ・理系の問題文は、過去に擬古物語からの出題はあったが、平安時代の作り物語からはじめて出題された。
- ・昨年と同様、解答数は三つであった。
- ・設問構成は昨年と同様、現代語訳二つと、説明問題一つであった。
- ・昨年はなかったが、和歌の一部の現代語訳の設問があった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『落窪物語』
頻出度合 ・的中等	出典は頻出である。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 約300字 (前年は約420字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
目	作り物語	問一	記述式	標準	和歌の一部の現代語訳。和歌について「姫君が亡くなった実母に呼びかけたものである」との説明があった。「つゆ」「あはれ」「ば」「消えよ」の訳出がポイント。(解答欄2行)
		問二	記述式	標準	説明問題。傍線部の内容説明問題で、傍線部の「とありともかかりとも」の「と」「かかり」の指示内容や、「よきこと」の具体化、「ありなむや」の反語がポイント。(解答欄2行)
		問三	記述式	標準	現代語訳。条件が付いていなかった。「まじければ」「消え失せなむ」「わざ」「もがな」「思ほす」の訳出がポイント。(解答欄3行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・近世の文章が二年連続で出題されていたが、今年度は平安時代の文章であった。いろいろな時代・ジャンルの文章に慣れる必要がある。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
- ・本文全体を現代語訳できるかどうかが京大理系古文の根本である。現代語訳をする練習がいちばんに望まれる。
- ・今年は和歌にかかわる問題が出題された、修辞・現代語訳・趣旨の説明など、和歌の対策は必ずしておきたい。